

# 平成31年度 伊平屋村教職員激励会開催



教職員赴任  
てるしの島へ  
ようこそ

四月四日(火)、伊平屋村離島振興総合センター大ホールにて、平成三十一年度伊平屋村教職員激励会が挙行された。本年度は新職員十名が赴任し、伊礼幸雄村長の歓迎の挨拶では「離島というハンディを克服し、児童生徒の学力の底上げや「人材育成」への期待が語られました。また、管理職を代表し、神山吉明(伊平屋中学教頭)、平田清子(野甫小学校教諭)からは、伊平屋島での職務への思い、島の取組などへの強い決意表明を頂きました。村教育委員会は、新職員の皆様に対し、島での職務を全うすることや一村民として地域と大いに関わること等、離島ならではのよさを生かした教育実践を切望いたします。今年も伊平屋島の子どもの達成感を捉えながら、社会教育、子ども達への支援していく決意です。先生方にも沖繩県に貢献する人材となる子ども達も達していく願っています。これまで同様、委員会とご協力をお願い致します。

## 激励会

司会 国吉係長  
教育課長

- 1 はじめのことば
- 2 歓迎の挨拶  
伊平屋村長 伊礼 幸雄  
教育委員会職務代理 与那覇 金城  
校長会長
- 3 三校新職員紹介(野甫・伊小・伊中)
- 4 決意の言葉  
管理職代表：神山吉明教頭 (伊中)  
教職員代表：平田 清子教諭(野甫)
- 5 教育委員・教育委員会職員紹介  
教育課長

## 教育施策説明

- 1 施策説明 指導主事
- 2 質疑応答

## 教育長講話

司会 指導主事  
司会

- 1 開会のことば
- 2 教育長講話  
演題『伊平屋村に必要な教諭とは  
～九カ年を通して～』  
教育長 東恩納 吉一
- 3 質疑応答
- 4 おわりのことば

「教育長講話」 伊平屋村教育委員会  
教育長 東恩納 吉一  
伊平屋村に必要な教諭とは  
～九カ年を通して～

赴任十年目となる東恩納吉一教育長が全教職員を対象に「教育長講話」を行いました。この重要性や学校のあるべき姿について例を挙げながらの説明がありました。  
一 組織で仕事をやる。仕事で仲良くする教師集団  
二 教師集団から信頼される経営者(管理職)の存在  
三 (あたり前のこと)掃除・聞かぬ態度・けじめ、身なり)等  
示唆的・計画的・組織的に動く「楽しい学校づくり」への求め。人間力」について深く考えるきっかけとなりました。経験を通して話と島の子どもの達成感、地域、保護者、教師への思いを先生方がこれまでの経験を生かして子どもに活かしながら取り組むことに期待しています。  
今年度は、村の施策を受け、具現化した取組で成果を出す学校であることを証明できる年と考えています。

## 教育長講話 教職員感想

- 私たち教師の関わり方で子ども達は変わります。常に子ども達のことを第一に考え、信念を持って関わり続けることができる教師は必ず子ども達の心を動かすと思っています。島発ちをしていく子ども達の人としての幹「人間力」を育てていきます。
- 話の中で三つの宝の話を学びました。一つ目が「徹底すること」、二つ目が「当たり前のことを当たり前にできること(凡事徹底)」、三つ目が「子ども達に本気で関わっていくこと」です。
- 島の先輩として、教師として、保護者として自分の立場を生かした教育を展開できるよう「自分にできることは何か」ということを常に自問自答しながら、信念を持って精一杯頑張っていきたいと思っています。
- 「人間教育は、時代が変わるうが学習指導要領が変わるうが根本は変わらない」ということに「はっ」とさせられました。チームの一員として人間力が育てられるよう、自分の意志をしっかり持ち進めていきます。
- 一人一人の子どもを捉え褒めるだけではなく、ダメなものダメという姿勢で向き合っていきます。「見逃さない、見落とさない、見捨てない」の精神で、一日一日大事に関わっていきます。
- 子ども達の支援助の前に、まず教師である私自身が人間力(当たり前のこと)を当たり前にできる(高める必要がある)と感じました。叱咤激励を受け止め、貢献できるように精進していきます。